

看護局教育体系

レベル	レベル毎の目標	看護の核となる実践能力	組織的役割遂行能力		自己教育・研究能力		基本的資質・態度
					自己啓発	キャリアアップ	
新人	Ⅰ.看護の核となる実践能力 1. 助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる 2. 助言を得ながら、安全な看護を実践する 3. 関係性と情報共有ができる 4. ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	【新人看護師】 ・輸液ポンプ・シリンジポンプ取り扱い ・バイタルサイン・心電図モニター ・カテーテル管理 ・清潔ケア、寝衣交換 ・酸素療法・排痰ケア・吸引 ・ポジショニング (褥瘡予防・移動の介助)包帯法 ・静脈注射の管理 中心静脈の管理	【新人看護師】 ・感染管理 (環境調整技術) (PPE着脱・手指消毒) (標準＋経路別予防策) (針刺し・暴露)など ・医療安全 (個人情報取り扱い) (患者確認)など ・防災 災害 医療倫理	院内必須研修 ・医療安全研修 2回/年参加	【研修】 ・日本看護協会主催 ・全国自治体病院主催 ・その他学会・研修会	【シリーズ研修】 ・認知症看護 ・緩和ケア	【新人看護師】 ・新任職員研修 ・コミュニケーション ・パートナーシップナーシング(PNS)
	Ⅱ.組織的役割遂行能力 1. 社会人、組織人としての自覚を持ち行動する 2. 指導・助言を受けながら、組織の中でチームメンバーとしての役割を果たす	・静脈採血(止血) 筋肉注射 与薬・インスリンの知識と管理 ・高齢者看護 高齢者看護の特徴 身体機能の評価 摂食嚥下 食事介助 ・急変予測(BLS) ・看護過程	・情報セキュリティ ・説明と同意 ・診療報酬・DPC	・感染管理研修 2回/年参加		・糖尿病 ・NST・褥瘡	・多重課題 ・グリーフケア
	Ⅲ.自己教育・研究能力 1. 指導・助言を受けながら、自己の教育的課題に気づき、専門職として継続教育の必要性が理解できる Ⅳ.基本的資質・態度 1. 自己の固定観念に気づくことができる 2. 自己の責任がもてる 3. 他者の意見を尊重することができる			・接遇研修 1回/年参加			・人間関係の構築 ・看護の魅力
	Ⅰ	4. 自分の許容範囲を知ることができる 5. 同じ目標に向けて行動できるようにチームメンバーとして行動できる 6. 部署の目標達成に向けて先輩看護師と共に行動できる 7. 他部門と協働するたの公正公平な行動がとれる 8. 看護実践場面を通し、言動や行動から人としての生き方が尊重できる 9. 多様な価値観を認め、表現できる 10. 五感を活用し物事を捉えられる 11. 自分と異なる感染を認めている 12. 創造的な発想を養うことができる	【キャリアラダーⅠ】 ・苦痛の緩和 死亡時のケア、家族ケア ・高齢者看護Ⅰ 身体機能の評価、食事介助等 ・薬剤等の管理 ・急変予測(ALS) キャリアⅠ・Ⅱ 合同 ・看護過程Ⅰ	【キャリアラダーⅠ】 ・感染管理 (環境調整技術) (標準＋経路別予防策) (針刺し・暴露)など ・医療安全 (患者確認など)		【キャリアラダーⅠ】 ・事例のまとめ(2年目)	
Ⅱ	Ⅰ.看護の核となる実践能力 1. ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズを自らとらえる 2. ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する 3. 看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる 4. ケアの受け手や周囲の人々の以降を看護に活かすことができる Ⅱ.組織的役割遂行能力 1. 専門職業人、組織人として行動する 2. 組織の中でチームメンバーとして役割を果たす Ⅲ.自己教育・研究能力 1. 自己の教育的課題を見いだし、専門職として継続教育に取り組むことができる 2. 自己の固定観念に気づくことができる 3. 組織にもたらす影響を考えた行動がとれる 4. 所属チームに責任が持てる 5. 他者の意見を尊重し、かつ意見を引き出す行動ができる 6. 指導・助言を受けながら、自己の教育的課題に気づき、専門職として継続教育の必要性が理解できる Ⅳ.基本的資質・態度 1. 同じ目標に向けてチームメンバーとして行動できる 2. 部署の目標達成に向けて先輩看護師と共に行動できる 3. 他部門と協働するための公平公正な行動がとれる 4. 多様な価値観を認め、表現できる 5. 五感を活用し物事を捉えられる 6. 自分と異なる感性を認めている 7. 創造的な発想を養うことができる	【キャリアラダーⅡ】 ・高齢者看護Ⅱ 身体精神社会機能の評価 食生活支援と誤嚥防止 ・看護過程Ⅱ	【キャリアラダーⅡ】 ・医療安全Ⅱ ・急変予測(ALS) キャリアⅠ・Ⅱ 合同	(看護大学との共同研究含む) ↓ 学術集会などにエントリー	【研修】 ・日本看護協会主催 ・山梨看護協会主催 ・全国自治体病院主催 ・その他学会・研修会 【キャリアラダーⅡ】 ・ケーススタディ ・看護研究Ⅱ		【キャリアラダーⅡ】 ・フレッシュパートナー研修(PNS)
	Ⅲ	【キャリアラダーⅢ】 ・看護過程Ⅲ ・地域連携Ⅲ ・ACPⅢ ・高齢者看護Ⅲ 身体精神社会機能の評価 食生活支援と誤嚥防止	【キャリアラダーⅢ】 ・リーダー研修		【生涯学習】 ・大学院進学 (修士・博士課程) 【キャリアラダーⅢ】 ・ケーススタディ ・看護研究Ⅲ	【研修】 ・専門看護師制度 ・認定看護師制度 ・医療安全関連 ・認知症関連 ・感染管理関連 ・特定行為研修制度 【講師等】 ・各種分野 【資格取得】 ・専門看護師 ・認定看護師 ・特定行為取得者 ・その他	【キャリアラダーⅢ】 ・フレッシュパートナー研修(PNS)
	Ⅳ	【キャリアラダーⅣ】 ・看護過程Ⅳ ・地域連携Ⅳ ・ACPⅣ ・高齢者看護Ⅳ 身体精神社会機能の評価 食生活支援と誤嚥防止 キャリアⅣ・Ⅴ 合同	【キャリアラダーⅣ】 ・キャリアデザイン (院外研修) 主任看護師対象		【生涯学習】 ・大学院進学 (修士・博士課程) 【キャリアラダーⅣ】 ・事例のまとめ ・看護研究Ⅳ キャリアⅣ・Ⅴ 合同		【キャリアラダーⅣ】 ・フレッシュパートナー研修(PNS)
	Ⅴ	Ⅰ.看護の核となる実践能力 1. ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる 2. 最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する 3. ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす 4. 複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整役割を担うことができる Ⅱ.組織的役割遂行能力 1. 所属する部署で、特殊なまたは専門的な能力を必要とされる役割または指導的役割を遂行する Ⅲ.自己教育・研究能力 1. 自己の教育的活動に積極的に取り組むと共に、専門職としてキャリア開発に努めることができる。また、後輩の役割モデルとなることができる Ⅳ.基本的資質・態度 1. 自己の固定観念に気づくことができる 2. 問題発生時、具体的な方策を考え、役割に応じた成果につなげられる 3. 所属チームに責任がもてる 4. 他者の意見を尊重し、かつ意見を引き出しながら相互に影響を与えられる 5. 自己の限界を認識し、メンバーの強みを活用できる 6. 自分の許容範囲を知ることができる 7. 同じ目標に向けて行動できるように部署メンバーを支援することができる 8. 部署の目標達成に向けて、相手が理解していることを確認しながら柔軟に行動できる 9. 組織の最適化いう目指し、他部門と協働するために公平な行動がとれる 10. 看護実践場面を通し、言動や行動から人としての生き方が尊重できる	【キャリアラダーⅤ】 キャリアⅣ・Ⅴ 合同		【キャリアラダーⅤ】 キャリアⅣ・Ⅴ 合同	【生涯学習】 ・大学院進学 (修士・博士課程) 【キャリアラダーⅤ】 ・事例のまとめ ・看護研究Ⅴ キャリアⅣ・Ⅴ 合同	

[illegible]